

## 肉屋が始めたドイツの郵便 中世期！彼らは名士だった

ドイツ人の博物館好きは有名だが、そのドイツにある「肉屋博物館」。

ただし、念を押しておく、これは「肉の博物館」ではなくて「肉屋の博物館」である。単に肉について語るのではなく、肉屋がいかに社会のために貢献して来たかを語ろうというのだからやはりドイツ的。

さすがというほかない。

誕生したのは一九八四年九月。所はバイエルン州、シュツットガルト郊外のベープリンゲンという町で、館内には古代エジプトの動物図、中世の肉屋が食肉処理の際に用いたオノ、現代の肉屋風俗を描いたマンガなど、肉屋商売にまつわる様々な展示品が見るものを十分楽しませてくれる。

中でも、ひとときわ力を入れて収集したと思われるのが、中世ドイツの肉屋の職人組合（ツンフト）と肉屋のマイスター（親方、有資格者）に関する資料、道具、写真、絵画などで、この博物館の目玉ともいえる「再現された肉屋ツンフトの部屋」には、ツンフトラーデンと呼ばれる「組合の箱」がひととき重々しくテーブル中央にすえられ、中に、中世のドイツにはじめて肉屋の組合が誕生した際の成立事情や経過、規約などを記した文書、印章、特権保

証書などが納められている。

当時は、この箱のふたが開いている時にはこれに近づく人は正装していなければならず、

また、箱を照らすためには当時もつとも高価な照明用具であった「ローソク」を用いなければならなかったと。

この肉屋のツンフトは、すでに十三世紀の文献中に見られるが、組合のメンバーはいずれも裕福で、当時としては社会的地位も拔群。

その誇りと使命をPRするためにはしばしば大がかりな催し物を主催し、一六〇一年には、今のギネスブック並みに、長さ七百センチ、重さ四百四十キログラムものブルスト（ドイツソーセージ）なども作り出して大いにデモンストレーションにも努めた。

また、家畜の買い付けで地方に向く際、郵便物を頼まれたのがきっかけで、ドイツ郵便制度の草分けにもなった。

